



地域と再エネ
新たな共生のかたち

松之山温泉(新潟県十日町市)の温泉発電プロジェクトが大詰めを迎えている。発電所名は「地EARTH(ジース)」。(2100坪)。現在、本格稼働に向けた試運転が続けられている。松之山温泉は魅力向上のための様々な試みを展開しており、温泉発電もその一つだ。

温泉発電、魅力の一つに

GPSS 新潟・松之山温泉で

思いくみ取り、多彩な試み

と一緒になりたいとい置し、モニタリングでうのは本気なんだ」ときるようになる計画思うようになったといだ。

立ち返る原点

松之山温泉が享受できるメリットの一つは、松之山温泉は今、原点に立ち返ろうとしている。松之山温泉は、雪が積もると立ち入るのは難しくなる。そこでシアス(東京都区区、目崎雅昭社長)の事業会社だ。現在の温泉発電は、十日町市が2018年度に実施した公募により、GPSSが事業主体となることが決まった。

対話を重ねて

若くしてシアスの責任者となった地熱開発の吉本将平執行役員について、柳氏は「酒を飲みすぎて何度つぶれていたか分からない」と苦笑する。対話を重ねるうちに「地域の重なるうちに」

不満を口々に

この歴史ある温泉郷に温泉発電の話が持ち上がったのは12年前。当時は環境省の実証事業だった。その後、実証事業は終了し、代わって現在のシアスプロジェクトが始動することになる。

老舗旅館「ひなの宿ちとせ」を営む柳一成氏は、環境省の実証事業も含めて、これまでの温泉発電の経緯を知る人物の一人だ。松之山温泉の旅館、飲食店、住民とともに、旅行会社として合同会社「まんま」を結成。まんまは温泉発電事業を行う特別目的会社(SPPC)の共同事業者となった。

SPCCのもう一つの松之山温泉の魅力向上に尽力する柳氏。温泉発電への期待は大きい。

「温泉はどこにでもある。松之山温泉にしかないものがあるかどうか。発電所はその一つにすぎない。あくまで温泉が第一だ」。一貫してそう主張する柳

(濱健一郎)